塘路湖畔で初確認されたチャイロスズメバチの記録

高橋　　進*・三浦　　武*

チャイロスズメバチ［*Vespa dybowskii* Andre,1884］は、一時的社会寄生（主にモンスズメバチやキイロスズメバチの初期巣を乗っ取る）することで知られおり、他のスズメバチ類と比較すると全国的にも記録の少ないスズメバチの一種である（写真１）。本報文では、職場で仕掛けている‘蜂トラップ’によって、令和６年６月に、本種が初めて捕獲されたので、標茶町における公式な記録として、ここに記したいと考える。

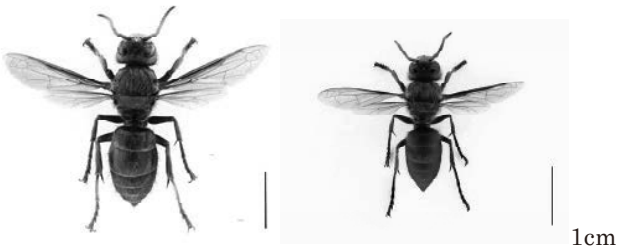

写真１. チャイロスズメバチ 左:女王蜂 右:働きバチ

筆者らが勤務する塘路湖エコミュージアムセンターでは、塘路湖畔遊歩道利用者の安全を考慮し、毎年、女王蜂が活動を始める６月上旬から、働き蜂の動きが活発となる10月末までの期間、蜂トラップによる間引き駆除を行っている。（トラップ液は料理酒（アルコール度数14.5～15.5％）３：酢１：砂糖１の混合液にジュースやワインなどを少量加えて使用。）

表１は令和４年６月初旬から令和６年10月末までのスズメバチ属の捕獲傾向である。蜂の捕獲数が増加傾向にある一方、捕獲される種の比率は、あまり変化がないことが伺える。

表１. 蜂トラップにおけるスズメバチ［*Vespa*］捕獲傾向

*Vespa*属	令和4年	%	令和5年	%	令和6年	%	累計	%
オオスズメバチ	20	4.3	63	5.1	88	6.5	171	5.6
コガタスズメバチ	99	21.5	197	15.9	169	12.4	465	15.2
モンスズメバチ	62	13.5	226	18.2	844	62.1	1,132	37.0
キイロスズメバチ	279	60.7	754	60.8	229	16.9	1,262	41.3
チャイロスズメバチ	0	0.0	0	0.0	29	2.1	29	0.9
総　数	460	頭	1,240	頭	1,359	頭	3,059	頭

図１は令和６年、塘路湖畔歩道周辺のトラップ設置図で、トラップ番号①～⑧内の赤い数字は全期間（令和６年６月10日～10月31日迄）を通したチャイロスズメバチのトラップ別捕獲頭数である。捕獲数の多かった⑥番の周辺を隈なく探してみたが、本種の営巣場所を特定するには至らなかった。

本種はスズメバチ類の中でも毒性や攻撃性の強さが指摘されており、勢力の拡大が危惧される種でもある。遊歩道の安全のため、来年度以降のトラップ集計においても、本種の勢力比率について、注視していく所存である。

引用文献

佐山勝彦. 2015 多種スズメバチに社会寄生するチャイロスズメバチの分布域と生息密度の増大の要因解明. https://kaken.nii.ac.jp/report/KAKENHI-PROJECT-25440248/25440248seika/

加藤　学・千田喜博・西崎健二・大生唯統. 2019 中国地方におけるチャイロスズメバチの分布拡大. 中国昆虫, 32：5-20.

土屋慶丞. 2013. 未記録種チャイロスズメバチを含む釧路市内におけるスズメバチ生息調査の記録. 釧路市立博物館館報 411：7-9.

中谷正彦. 2011. 弟子屈町和琴半島でチャイロスズメバチを発見. Sylvicola, 29：13-14.

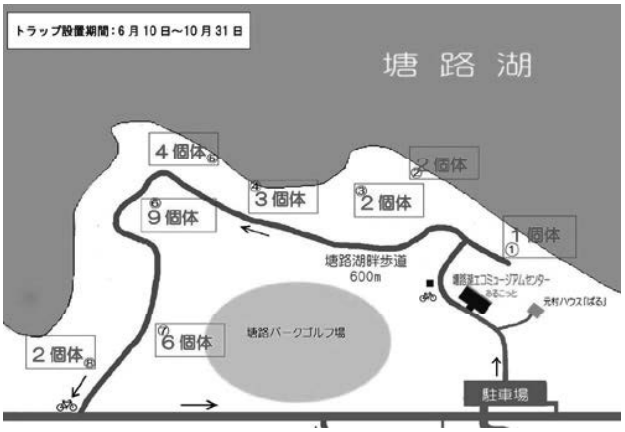

図１. 令和6年度トラップ別 チャイロスズメバチ捕獲数

＊塘路湖エコミュージアムセンター